

信州大学工学部ワークショップ

〔日 時〕平成 27 年 11 月 19 日（木）14:30～17:30

〔実施場所〕信州大学国際科学イノベーションセンター

〔参加生徒〕 18 名

Step 1. 《雪と聞いて思わず溜め息がでること》共有・共感

ほかの人の経験を自分の経験として共感した。共感によって情報の密度が飛躍的に高まった。

Step 2. ため息が出ること＝問題点・不満点のグループ化+こんなのがあったらいいかも
問題点・不満点の裏にある「やりたいこと・ほしいこと」を探った。類似するものを集めることで隠れているニーズを発見しやすくした。

Step 3. やりたいこと・ほしいことを満たす突飛な仮説設定・制約（トレードオフ）発見
突飛な解決策を考え、問題解決にあたって検討が必要になる制約条件を明確にした。

Step4. 問題定義文の作成

ワークショップの結果を集約し、問題定義文を作成した。



皆でアイデアを出し合いました。

付箋に書いて貼っていきます。



項目ごとに整理をし、解決すべき問題点を示しました。